

関西支部 2012 年度第 1 回支部講演会報告

上野卓哉 (うえの たくや)
有馬昌宏 (ありま まさひろ)
兵庫県立大学応用情報科学研究科
福井 誠 (ふくい まこと)
流通科学大学総合政策学部

経営情報学会関西支部では 2012 年 4 月 7 日 (土) に大阪・梅田の流通科学大学大阪オフィスにおいて、平成 24 年度の支部総会を開催するとともに、支部講演会を開催し、流通科学大学商学部特別教授石原武政氏による「科学の抽象性と法則認識」と題する講演とディスカッションが行われた。今回の講演は、石原教授が提唱される「競争的使用価値」の概念を巡っての石原教授と流通科学大学長である石井淳蔵氏の論議が原題となっている。

論議的的となっている「競争的使用価値」とは、欲望(需要)の生産(供給)からの独立性の想定に異議を唱え、欲望が競争過程の中から生み出されることに着目し、価値実現競争過程を担う使用価値として定義された概念である。「競争的使用価値」の枠組みは、そもそもマルクスによって提唱されており、価値実現競争からの規定が強まった段階、つまりマーケティングの登場以降から概念として使用されてきているものである。製品の属性には、製品の本来の機能を満たす基本的属性と本来の機能とは別の付加価値を与える副次的属性が存在する。前者は普遍的なものであり、後者は競争的に追加されるものである。副次的属性の中には、時間の経過とともに標準となり、基本的属性の中に取り込まれ、使用価値となるものもある。「競争的使用価値」について、石井氏は、無限の変化を含意する同一性(閉じているが開いている)という形式論理場の矛盾を含意する競争的使用価値概念は、変転するマーケティングの現実、すなわちマーケティング・ダイナミクスを分析する有力な手がかりとなるものであると評価している。しかし、その一方で、基本的使用価値や副次的使用価値を認めることで、製品に本体的な自ずからあるものを想定したことになるとして概念としては不徹底であると批判している。

従来の「競争的使用価値」の概念の背景には、場合によって立場が使い分けられる消費者のご都合主義的な解釈があった。マーケティングにおける消費者と生産者のモデルでは、生産者は消費者の持つニーズを調査し、消費者のニーズに対応することが重要だと主張しているが、これは誤りであると指摘され、生産者は消費者の曖昧なニーズを満たすための具体的な提案を行い、消費者からその具体的な提案に対する反応、つまり具体的な欲望を得ることが正しい姿であり、曖昧なニーズに対して具体的な提案を行うことこそが重要であると述べられた。また、理論水準の点などから、マルクス経済主義的マーケティング論からの決別が「競争的使用価値」の新たな定義の背景となっているとも述べられた。

石井氏は、欲望の開発を生産力から説明することは、製品に内在した価値であるアприオリな使用価値を前提とするものだと指摘されており、「欲望の抑圧」や「消費の歪み」といった表現は「正当な欲望」あるいは「正当な消費」という正当な状態が存在していることが前提であると批判されていた。また、生産力からでは説明できない文化的要素を説明に加える必要を示されていた。それに対し、石原教授は、文化的要素を考慮することは否定しないが、そのためには生産力との関係や文化の歴史性についても検討する必要があると反論されている。

社会科学における最も主要な方法論として機能主義があるが、これはマーケティング研究においても最も代表的な接近方法である。しかし、石原教授は、機能主義に対し懐疑的であり、機能を要素還元的にすべて抽出できるのかという点、流通機能のように生産者や小売業でも遂行可能な機能であれば「誰が行うか」よりも「どんな機能が必要か」の議論が先行してしまう点などについて不満があると問

題を提起された。

最後に、石原教授は、近代理論のご都合主義的な解釈に疑問があるとする一方で、近代理論が長く受け入れられているのにはそれなりの根拠があると、法則性やルールの認識は議論の抽象次元によって異なると述べられて講演の結びとされた。

その後、経営学、商学、マーケティングなどそれぞれの間にある壁を超えた議論があるのかや、現場と理論の溝を埋める方法論の可能性などについての議論が参加者との間で活発に行われた。

略歴

上野 卓哉 (うえの たくや)

1989年生まれ。兵庫県立大学応用情報科学研究科博士前期課程2年次在学中。

有馬 昌宏 (ありま まさひろ)

1954年生まれ。1972年に筑波大学社会工学研究科中途退学後、神戸商科大学商経学部管理科学科助手、講師、助教授、教授を経て、2004年より兵庫県立大学応用情報科学研究科教授。2011年4月より経営情報学会関西支部長。

福井 誠 (ふくい まこと)

1957年生まれ。1984年に関西大学大学院社会学研究科修了後、民間企業等を経て、2007年より流通科学大学総合政策学部教授。2009年4月より2011年3月まで経営情報学会関西支部長。

